

学会記事

◎第5回理事会（昭.32.10.17）出席者：米田，篠原副会長，東，中安，飯吉，高坂，国分，丸安，逸見，米屋の各理事。議事：1) 9月中の行事その他報告，2) 土木賞委員会委員の推薦について，3) 第2回万国地震工学会議準備委員会から雑費借用方申入れについて，4) 会誌抄録委員会委員山田楢吉君転出のため土屋雷蔵君を委嘱のこと，コンクリート鉄道構造物委員会委員宮沢吉弘君を原口正一君に交代委嘱のこと，会誌編集委員会委員杉田安衛君転出のため大野 宏君に，同梅木一郎君転出のため尾崎 寿君にそれぞれ委嘱のこと，波力小委員会委員に鶴田千里，樫木 亨両君を追加委嘱すること。

5) JIS 建築製図基準委員に八十島義之助君を推薦すること，6) 朝日賞候補者に東京都小河内ダム建設の佐藤志郎君を推薦のこと，7) 土木学会用地について，8) 大阪大学工学部創立十周年記念誌に祝辞寄稿について，9) 会誌交換または寄贈について，10) JREA 特別会員に入会について，11) 東北支部創立 20 周年記念式典について，12) JSC 研究費委員会から依頼の昭和 33 年度文部省科学研究費等分科審議会委員候補者推薦について，13) 北海道支部 32 年度予算，中国四国支部 32 年度予算および支部内規改正について，14) 会員の入退会承認。

◎各種委員会

1. 第5回会誌編集委員会（昭.32.10.22）出席者：糸川，丸安正副委員長，栗栖(代)，南，松本(代)，大野(代)，安藤，尾形，粟津，八十島，岡崎各委員，東北支部 後藤，中部支部 荒井(代)，関西支部 小西(代) 各地方委員，深谷幹事。協議事項：1) 投稿原稿審査報告，2) 原稿依頼状況，3) 委員交代の件（梅木委員転任のため 尾崎 寿君を，杉田委員転任のため 大野 宏君をそれぞれ決定），4) 講座について，5) 土木賞委員推薦の件，6) 42 卷 12 号（増大号）掲載予定論文を次のとおり予定，7) その他。

飯吉精一・飯島 茂・鈴木雅次・平山復二郎：海外建設事情講演会講演要旨，中山敏雄：高島海底送水管布設工事について，丹羽義次：光弾性実験法とその土木工学への応用，能登・上前・関野：掖ヶ島大橋の計画，水野俊一：コンクリートの品質管理のための無破壊試験の利用について，鍛冶晃三：南極における空中写真の利用，その他。

2. 第5回会誌編集小委員会（昭.32.10.4）出席者：糸川，丸安正副委員長，深谷幹事。協議事項：42 卷 11 号会誌編集につき最終的打合せを行った。

3. 第5回会誌抄録委員会（昭.32.10.2）出席者：八十島委員長，伊能，岩間，垣中，小池，佐藤，高秀，堀井，松本，湯浅，矢島，渡部の各委員，高橋幹事。協議事項：1) 11 月号掲載抄録 4 編を決定，2) 新規抄録の提案，3) 山田委員の後任に土屋雷蔵君を決定，4) 11 月号文献カードの決定，5) その他。

4. 第3回コンクリート示方書解説委員会（昭.32.10.

2) 出席者：吉田委員長，国分，川口，谷藤，畑野（代永倉），丸安，三浦，山田，樋口，深谷，伊東，関の各委員。議事：無筋第 33 条まで審議。第 4 回同委員会（昭.32.10.9）出席者：吉田委員長，国分，川口，谷藤，畑野(代永倉)，丸安，樋口，深谷，伊東，関の各委員。議事：無筋第 45 条まで審議。第 5 回同委員会（昭.32.10.21）出席者：吉田委員長，国分，川口，谷藤，樋口，深谷，伊東，関，山田，丸安，三浦の各委員。議事：無筋解説第 68 条まで審議。

5. 第5回土木振興対策委員会（昭.32.10.3）出席者：平山委員長，大島，金森，河口，黒田，比企，柳沢，山本，吉田，種谷，松野，千秋，篠原の各委員，中安幹事。議事：1) 技術士試験に対する建設部門の専門区分について比企委員から土木設計管理小委員会の経過報告後に種々協議した，2) 試験方法は面接，論文に重点を置き専門区分は第二次的とすること，3) 工務士法案を技術士法と平行して立案せねばならない，4) 土木設計管理小委員会で設計管理基準案を審議中であるが，成案を得た上で本委員会に報告する，5) 技術者の人口調査を各支部に依頼すること。

6. 第8回土木設計管理小委員会（昭.32.10.8）出席者：平山振興対策委員長，比企委員長，豊田，久保，仁杉（代伊能），増山，近藤（代浜守），塘，八十島，河野の各委員，磯部幹事。議事：前回審議したあとの第 2 章第 5 条（予備報告書の作成），1) 予備調査・地質調査の管理，2) 予備設計，3) 費用の見積，4) 最も適当な解決方法についての勧告，5) 工事の経済的妥当性の判定。以上について業務基準試案第 9～第 17 条にもとづき逐条審議の結果，相当書き換える必要があるので，次回までに第 1 条からあらためて試案を書き直して再審議することとした。第 9 回同委員会（昭.32.10.24）出席者：平山振興対策委員長，比企委員長，豊田，加納，久保，吉田（良）の各委員，磯部幹事。議事：1) 前回までの第 1～第 11 条を再審議し，2) 第 12 条以下（試案第 18～第 24 条）につき審議した。

7. 第1回フライアッシュ小委員会（昭.32.10.10）出席者：国分委員長，三浦（代杉木），水越（代知久），平野，野瀬（代大斎），関，河原（代村野），高野および柳川，左右田，高橋，渡部（代浜）および渡辺，本間（代広田），光岡外 1 名，久木田の各委員。議事：1) JIS 規格試案による試験結果の報告，2) 研究分担項目の協議，3) 研究費の配分案について協議。

8. 第16回耐震工学委員会（昭.32.10.14）出席者：沼田委員長，岡本，近藤，友永，村，石井，猪瀬，比田（代白石），久保幹事。議事：1) 第 2 回万国地震工学会議について報告，2) 強震測定計画について，3) 万国地震工学会議の準備について。

9. 第59回コンクリート鉄道構造物委員会（昭.32.

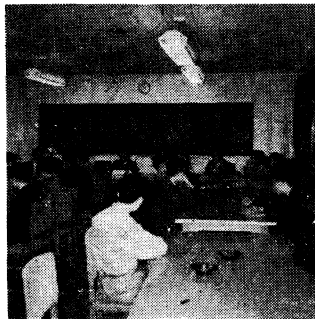
10.18) 出席者：吉田委員長，高橋，沼田，岡本，平井，丸安，友永，大槻，坂本，原口の各委員，川口，深谷，小寺，尾崎，高橋，三浦，大山，池原，佐藤，松本の各幹事。議事：橋台，橋脚の設計基準の審議。

10. 第6回原子力土木技術委員会（昭.32.10.23）出席者：福田委員長，岡本，逸見，野田，長山，近藤，藤原の各委員。議事：1）原子炉構造物と地震の問題について電力技術研究所において研究をするかどうかを次回に相談，2）関西原子炉設置準備委員会に対する回答はしばらく保留，3）原子力関係溶接文献集（日本溶接協会発行）は委員会用として学会に備付ける，4）東海村原子力研究所見学を11月12日とし手続きを取る。

◎講演会その他

1. 水理講話会および打合せ（昭.32.10.4）出席者：安芸委員長外約30名。先般 IAHR (International Association for Hydraulic Research) 大会に出席された伊藤 剛，坂本龍雄両氏の会議報告および欧州の視察報告があり，終つて安芸委員長，米屋幹事長，本間，伊藤，坂本，林，佐藤，吉川，近藤の各委員で明年1月中旬訪日予定の Prof. Ippen の接待につき細部打合を行い，

水理講話会会場



日程について京都とも打合せること等を懇談した。

2. 海外建設事情講演会（昭.32.10.15 国鉄8階映写室）

午後 2.00～3.00 時 南米ペルーの鉄道調査（スライド）

- 3.00～3.30 時 飯 吉 精 一 君
3.30～4.00 時 岐 島 茂 君
中近東への日本技術の進出について
鈴木雅次君
- 4.00～4.30 時 プレストレスト コンクリート世界会議に出席して
平山復二郎君

聴講者 100 余名，講師おのおのの分野から見た欧州，北南米各地の建設事情について講演された。

3. 第1回材料試験連合講演会（昭.32.10.28～29）日本学術会議材料試験研究連絡委員会主催，12 学協会連合の第1回材料試験連合講演会は，上野科学博物館講堂（第1会場），学術会議講堂（第2会場）で開催されたが両会場合わせて両日も聴講約 180 名，発表論文 77 編，各題ごとに盛んに質疑応答された。

ほかに第1日特別講演“わが国電力の将来”について電源開発KK理事豊島嘉造氏の講演があり，電源開発提供の映画“只見川第一部”は第1会場満員の盛況であつた。なお，第1日午後6時より学術会議第2会議室における懇親会は参加者 45 名で和やかに歓談された。

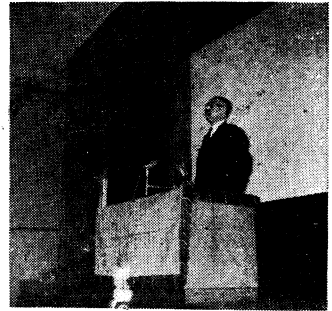
◎秋のエキスカージョン（昭.32.10.25～26）

恒例の秋のエキスカージョンは，電源開発KK只見川水系田子倉ダムの工事を見学することになり，秋色深い会津盤梯山を望みつつ紅葉に映える電源地帯の探勝として行われた。10月25日朝8時津若松駅前に集合，心づくしの朝食弁当とお茶と見学についての参考資料等が手渡され参加章を胸につけてバスに乗りこむ。

8時半バスは会員53名をのせて発車，このあたりは名物の柿が道の両側に赤くつらなつて秋の景色を楽しませてくれる。バスガールの説明も快く，大川をわたり難所七折れ峠を下ると早や右に片門発電所が見えてくる。すでに只見川系の一連の発電所に達したわけだ。これから柳津，宮下，上田，本名と廻り田子倉にいたる間，あるいは右にあるいは左に只見川の流れを見つつ，またその兩岸の紅葉の盛りを心ゆくまで鑑賞するのだが，その前に只見川についての知識を資料について調べてみよう。

只見川は尾瀬の湿原より河口の新潟にいたるまで全延長 260 km，その流域面積 8 400 km² におよび，重畳たる山岳地帯を水源として，流域はうつつそうたる密林でおおわれ丈余の積雪をみる有数の多雪域で，従つてその包蔵流量もきわめて豊かであり，絶好の水利条件をそなえ，加えて天与の地質と地形は電源開発の宝庫として，天下にその比を見ないものである。既設のおもな発電所とその規模を示すと下のごとくである。

海外建設事情講演会（壇上は鈴木氏）

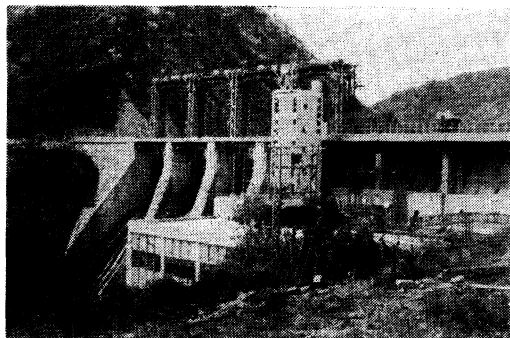


電源開発田子倉建設所長後藤社介氏の説明



発電所名	最大使用水量 m ³ /sec	有効落差 m	最大出力 kW	年間可能発生電力量 10 ⁶ kWh	
既設	本名	173.3	34.9	52 000	272
	上田	189.3	26.3	42 600	224
	宮下	200.0	38.8	64 200	354
	柳津	230.0	25.4	50 000	253
	片門	230.0	19.3	38 000	194
	新郷	312.0	19.8	51 600	334
	山郷	236.0	14.8	29 400	221
設	豊実	270.0	25.55	56 400	408
	鹿瀬	270.0	22.43	49 500	365
	伊南川	22.5	128.6	24 000	144
	沼沢沼	24.2	215.5	43 600	— 11

本名発電所



田子倉ダム現場



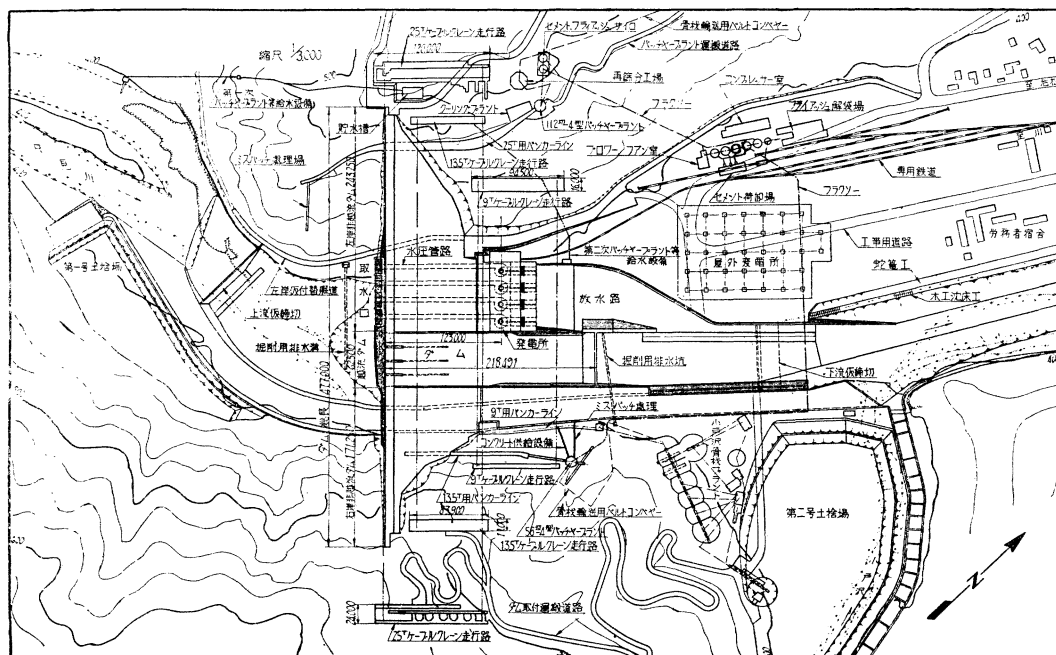
これら既設の発電所に加えて、さらにそれらの増設、または新設を目下計画中であり、これから見学せんとする田子倉ダムも、奥只見、尾瀬原等とともに今後の計画の主流をなすものの一つである。

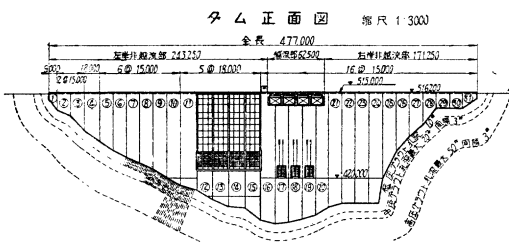
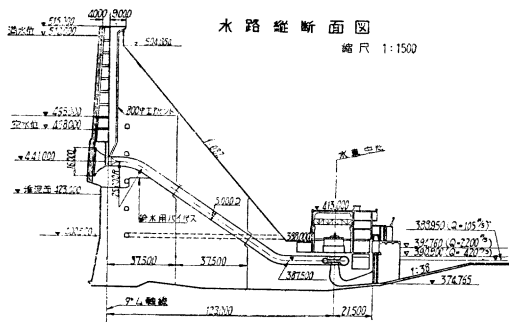
本名発電所にて暫時休憩の後、再び乗車、正午少し前に田子倉に入る。田子倉の町は山中にかかる賑やかな所にあり想像もできぬほどの軒並みで、この工事の大きさはすでにその活気の中に現われている。

一同扇屋旅館に入り、電源開発KKの厚意による昼食をすませ、ただちに同社のクラブにて後藤建設所長から田子倉ダムの説明を聞く、その規模はつぎのごとくであるが、佐久間ダムとくらべて見ても出力38万kW(佐久間35万kW)、堤体容積192万m³(佐久間120万m³)とその大きさが知れよう。

- (1) 貯水池：
 - 有効貯水量 370 000 000 m³
 - 湛水面積 9 952 000 m²
 - 利用水深 52 m
- (2) ダム：
 - 型式 重力式可動扉付コンクリートダム
 - 堤高 145 m
 - 堤長 477 m
 - 堤体容積 1 920 000 m³
 - ゲート テンターゲート 幅 12.5 m
 - 高さ 8.3 m 4門
 - 放水路 ダム体内放流路
- (3) 主要機械：
 - 水車 立軸フランシスタービン4台(第一期3台)
 - 最大出力 100 000 kW
- (4) 設備能力：
 - 発生電力量 年間 579 800 000 kWh
 - 冬期 234 100 000 kWh

説明と会員の質問が終ると一同は9台のジープに分





乗，三班に分れて現場に向う。

すでに図面その他から（口絵 参照）想像していたように現場は壮大の一語につきる。ダム建設地点には佐久間ダムから持ってきた 25 t のケーブル クレーンを始めとして大小 4 条のケーブル クレーンが間断なくコンクリートを運搬し，1日 4 000 m³ の目標達成に營々として上下左右に動き，ダムの前面下方にはすでに発電所の鉄骨ができ上り，水圧管がその後方から組上つて斜めに堤体コンクリートの中から上をのぞいている。コンクリートを混合するパッチャー プラントは右岸に 2 基，左岸に 1 基，骨材は下流 5 カの集積所所から，昼夜の別なくダンブトラックで運搬，骨材工場で破碎，ふるい分け，再ふるい分けを経て，延々 4 000 m に達するベルトコンベヤーでプラントに運ばれる。まことに眺めておくことなき雄大な土木工事である。一同はこれらの施設をを上流側下流側，あるいは展望台等から十分見学の目的を達して夕暮迫る田子倉の町に帰り，各宿舎に入った。

夜は恒例の懇親会が扇屋旅館の大広間で開かれ，電発側の後藤所長，工事請負者側前田建設の大石専務等と膝を交えて工事苦心談等に花が咲き，秋の夜長を語り，か

つ盃を傾けて飲をつくしたのであった。

◎支部だより

東北支部 第 2 回見学会（昭.32.9.28～29，土質工学会東北支部と共催）参加者 90 名，9 月 28 日午前 10.20 時盛岡駅前集合，国鉄バス 3 台に分乗，正午岩洞着，昼食後岩手山ろく事業所長代理および電力局佐藤課長の説明を受け，3 班に分れて現場見学を行う。15 時岩洞出発，国道見学のため南部国道工事事務所に向い見学の後「つなぎ」泊，29 日解散。

中部支部 昭和 32 年度中部支部年次大会（昭.32.10.19～20，岐阜市司町岐阜県市町村会館において）

第 1 日 10 時～11 時 挨拶並びに議事

11 時～12 時 講演会

中部地方の鉄道建設並びに改良について

国鉄岐阜工務局長 吉田朝次郎氏

長良橋架換工事について 岐阜県土木部長 和田恒広氏

13 時～17 時 見学会

13 時バスで町長会館出発→長良橋→鴻尾大橋→治水神社参拝→17 時養老公園到着，18 時養老館で懇親会，宿泊。

第 2 日 8 時朝食養老公園の滝および公園内見学

10 時バスにて帰路につき 11.30 時岐阜駅前解散。

本大会には本部代表として篠原副会長が出席された。

◎日本学術会議その他関係学協会の動き

1. JSC 力学研究連絡委員会委員長 中西不二夫 (10.2)， JSC 橋梁・構造工学研究連絡委員会委員長 福田武雄 (10.3) 両氏から講演会無事終了についてそれぞれ礼状に接した。

前者から明年第 8 回応力連合講演会の幹事学会を土木学会と日本物理学会とに依頼するとの依頼状に接した。

2. JSC では 10 月 2～4 日に第 25 回総会を開催した。

3. 日本工学会理事会（昭.32.10.3）土木学会より米屋理事出席。議事：1）日本工学会の講演担当の理事，2）Pacific & Far East における工学協会の連合組織について Mr. Hathaway から加茂会長に対する書簡について協議。

4. 日本機械学会では 10 月 12 日創立満 60 周年記念式典を東京会館で盛大に挙行政した。

5. 道路協会では 10 月 22～26 日に産経会館で第 4 回日本道路会議を開催し，26 日会議終了後産経ホールで十周年記念式典を挙行政した。

会 員 現 在 数 (昭.32.10.31.現在)

名誉員	賛助員	特 1 級 A	B	C	特 2 級	特 3 級	正 員	准 員	学 生 員	合 計	増 加
22	30	12	11	64	107	95	7 161	5 090	1 229	13 821	157

昭和 32 年 10 月分入退会報告 (昭.32.10.1～10.31)

1. 入 会 157 名 (正 57, 准 62, 学生 36, 特 2 級 1, 特 3 級 1)
2. 退 会 25 名 (正 7, 准 6, 学生 12)
3. 転 格 20 名 (准より正へ 15, 学生より准へ 3, 特 1 C より特 2 へ 1, 特 2 より特 1 C へ 1)